

全ト協「健康管理につなげて」  
運輸ヘルスケアナビシステム活用セミナー



大西部長

全ト協主催の「運輸ヘルスケアナビシステム」実践的活用セミナーが22日、大

阪府トラック総合会館で行われた。全国5か所でセミナーは開催され、25日には愛知県で開催、6月には宮城県でも開催される。

開会あいさつと同システムの経緯に



作本副理事長

ついて、全ト協交通・環境部付部長の大西政弘氏が「過労死や健康起因事故の防止に向けては、ドライバーの健康管理も重要な課題。まずは定期健康診断の実

施が入り口だが、健診結果をその後の対応につなげずに放置している実態が多い。産業医を抱えていない事業者にとって、管理者が的確に対応することは高い。昨年の実証実験結果を見てみると、ドラ

イバーの健康状態は予想以上に厳しいものがあった。ドライバー確保のために、システムを活用し健康管理の実践につなげていただければ」と述べた。

健康診断の受診のあり方や、同システムと一連で押さえるべき睡眠時無呼吸症候群(SAS)についても説明した。

さらに、OCHIS保健師の黒田悦子保健師は、「健診結果100%活用方法をテーマに講演。健診の可視化で管理職が簡単に事後フォローできる内容や、労災二次健診について紹介した。

(木村麻理奈)